

保育におけるリズム楽器の活用に関する研究
—保育の現状とリトミック実践からの検討—
入江真理¹⁾

A Study on the Use of Rhythm Instruments in Early Childhood Education
and Care

—Considering of the Current Situation and Dalcroze-Eurythmics Practice
of the Use of Rhythm Instruments—

IRIE Mari

Abstract : The purpose of this study was to find a way to improve the use of rhythm instrument in early childhood education by focusing on enriching the human environment with the child care worker. First, in order to clarify the present situation, I conducted a survey of child care workers in Shizuoka Prefectures. The result showed that rhythm instruments were mostly used to practice for musical performances. This didn't involve much free movement or expression. Next, I analyzed Dalcroze-Eurhythmics Method and found that most Kindergartens and Nursery schools already in corporate some elements that emphasize the relationship between “dynamics, space and time” In conclusion, I believe that if we offer child care workers a clear understanding of Dalcroze-Eurhythmics method they will be able to improve the use of rhythm instruments and cultivate the power of expression and enrich child creativity.

Keywords : rhythm instruments, early childhood education, Dalcroze

はじめに

幼稚園教育要領、保育所保育指針、及び幼
保連携型認定こども園教育・保育要領におけ
る保育内容「表現」のねらいとして、「音楽
に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器
を使ったりなどする楽しさを味わう¹⁾」こと
が共通して示されている。また、簡単なリズム
楽器²⁾であるカスタネット、鈴などは、多
くの幼稚園、保育所、こども園に備えられて
おり、子どもにとっても、保育者にとっても、
大変身近な楽器といえる。しかし一方で、「楽
器指導が毎日の生活の中で行われることが少
ない³⁾」ことや、反対に「子どもの手の届く
ところに用意したつもりの楽器も、むやみや
たらにガチャガチャ音を立て、振り回すだけ
の活動にしかっていない⁴⁾」こと、また、
行事のための「行き過ぎた技術指導が行われ

ている幼稚園・保育所もまた、枚挙にいとま
がない⁵⁾」、という指摘がなされるなど、子ど
もが表現を楽しむために、十分活用されてい
ない現状がうかがわれる。

幼稚園教育要領においては、「幼稚園教育
が環境を通して行う教育であるという点にお
いて、教師の担う役割は大きい⁶⁾」こと、「幼
児の主体的な活動を直接援助すると同時に、
教師自らも幼児にとって重要な環境の一つで
あることをまず念頭に置く必要がある⁷⁾」、と
示されている。加えて、「物的環境の構成に
取り組んでいる教師の姿や同じ仲間の姿が
あってこそ、その物的環境への幼児の興味や
関心が生み出される⁸⁾」、としている。つまり、
「教師の動きをモデルにしてその動きをまね
たり、考えたりしながら、身に付けたり、気
付いたりしていく⁹⁾」のである。このように

1) 静岡産業大学経営学部
〒438-0043静岡県磐田市大原1572-1

1) School of Management, Shizuoka Sangyo University
1572-1 Owara, Iwata, Shizuoka, 438-0043, Japan.

人的環境として大きな役割を担う保育者が、リズム楽器をよりよく活用することによって、子どもが「楽しさを味わう」ことができる表現活動を指導し、援助できるのではないだろうか。

リトミックは、エミール・ジャック＝ダルクローズ (Jaques-Dalcroze, Emile 1865-1950、以下 J = ダルクローズと表記) による音楽教育に身体運動を取り入れた教育方法である。リトミック教育においては、R. リング、B. シュタインマン (2006) が「20 年代になってリトミック教師たちの多くが…鐘、トライアングル、ハンドドラム、バットなど、小さな楽器を使うようになった¹⁰⁾」、と示すとおり、リズム楽器を使用するリトミック実践は少なくない。このようなリトミック教育の方法は、保育におけるリズム楽器の活用に 1 つの方向性を示すのではないだろうか。

これまで、保育者のリズム楽器活用に関する研究としては、駒ら (2009) が、人的環境としてのリーダーや保育者の応答性に着目し、身体的表現、応答的な音楽活動、環境設定の 3 点の重要性を指摘した。¹¹⁾ また、横井 (2011) は、保育者を対象とした質問紙調査を実施し、保育者は、音楽的表現のためにオルガン・ピアノ等の楽器や、リズム楽器を環境として準備しているが、子どもに指導・援助するためには、保育者自身の音楽的な技能の向上が必要と考えていることを明らかにした。¹²⁾ また、梅澤・横井 (2012) の研究では、子どもの叩く活動のリズム運動的な特性に焦点を当て、実験的实践から子どもの表現と保育者の働きかけ・援助の関係を明らかにしようとするものであった。¹³⁾ 乙部 (2016) は、楽器導入における保育者の願いと幼児の発達との間のギャップを研究し、保育者は幼児の年齢の発達段階以上のことを期待し、実践する傾向があることを明らかにした。¹⁴⁾ 細田・香曾我部・上田 (2019) は、保育者は行事と日常的な器楽表現の活動を強く関連づけ、器楽表現活動が行事のために行われていることや、保育者が音楽的な能力・知識を身につける必要性を指摘した。¹⁵⁾ これらはいずれも、リズム楽器等の活用の実態を明らかにし、課

題を指摘する示唆に富む研究である。しかし、リズム楽器そのものに焦点を当て、保育者のリズム楽器の活用方法について、具体的に考察したものは見当たらない。そこで、本研究においては、保育者を人的環境として重視し、リズム楽器ならではの表現の可能性を検討したいと考えている。まずは、保育におけるリズム楽器活用の現状を明らかにするため、リズム楽器の使用について、静岡県内の保育者に質問紙調査を実施した。次に、リトミックの実践書からリズム楽器を使用した実践例を取り上げて分析し、リトミック教育の方法が、保育者のリズム楽器活用に資する可能性を検討する。

1. リズム楽器の活用に関する調査

(1) 方法

1) 調査期間：2019 年 6 月 21 日から 2019 年 9 月 15 日

2) 対象：静岡県内の幼稚園、保育所、幼保連携型こども園に勤務する保育者。

3) 方法：①「いわた元気っこ協定」によって、磐田市幼稚園保育園課に研究調査協力を依頼し、代諾を得た後、同課を通じて質問紙を各園にデータにて送信、保育者の回答が得られたデータを収集した。②質問紙を静岡県内の幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園に郵送し、各施設長に調査協力の了解を得た後、保育者の回答が得られた質問紙を回収した。

(2) 内容：子どもと保育者が使用するリズム楽器の種類と使い方について、自由記述で回答を求めた。

(3) 結果：

1) 回答者の所属については、表 1 のとおりである。

2) ①の調査では、25 園のうち、25 園から回答を得た。回収率は 100% であった。②の郵送による調査は、36 園に郵送、18 園から回答を得た。回収率は 50% であった。全体の回収率は、70.5% であった。

3) 保育者と子どもが使うリズム楽器
保育者が使うリズム楽器と子どもが使うリズム楽器は次の表 2、表 3 のとおりであった。

表1 回答者の所属と回答人数

回答者の所属	公立(人)	私立(人)	計(人)
幼稚園	29	7	36
保育所	32	51	83
幼保連携型こども園	17	36	53
計	78	94	172

表2 保育者が使うリズム楽器

保育者が使うリズム楽器 (n=172)		
	回答数 (人)	%
タンブリン	123	71.5
カスタネット	93	54.1
鈴	83	48.3
トライアングル	83	48.3
ウッドブロック	62	36.0
大太鼓	49	28.5
小太鼓	38	22.1
シンバル	12	7.0
その他	23	13.4

表3 子どもが使うリズム楽器

子どもが使うリズム楽器 (n=172)		
	回答数 (人)	%
カスタネット	156	90.7
タンブリン	150	87.2
鈴	135	78.5
トライアングル	117	68.0
ウッドブロック	109	63.4
大太鼓	97	56.4
小太鼓	69	40.1
シンバル	18	10.5
その他	38	22.1

保育者が最も使うことが多いリズム楽器はタンブリンの71.5%であった。次いでカスタネット54.1%、鈴48.3%、トライアングル48.3%、ウッドブロック36.0%、大太鼓28.5%、小太鼓22.1%、シンバル7.0%が続いた。一方、子どもがよく使うリズム楽器は、カスタネット90.7%、タンブリン87.2%の順に多

いという結果であった。子どもと比較すると、保育者は他のリズム楽器に比べ、タンブリンを使う機会が多いことが着目される。

4) 保育者のリズム楽器の使い方

リズム楽器使用についての保育者の回答を分類した結果は、図1のとおりであった。

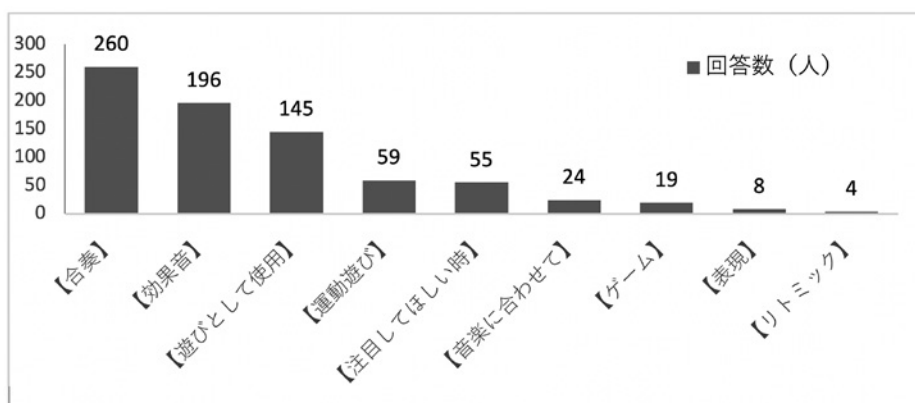


図1 保育者のリズム楽器の使い方

図1のように、保育者のリズム楽器の使い方として最も多いのは、子どもが合奏をする時の手本と一緒に打つこと、合奏の合図のために使うという回答の260人であった。2番目は、行事などの効果音として使うという回答の196人であった。¹⁶⁾ 3番目は、遊びとして使うこと、たとえば、楽器遊び・リズム遊びの145人であった。4番目は、運動遊び

の59人、次いで、注目してほしい時の使用が55人という結果であった。

5) 楽器別の使い方

次に、多くの保育者が使う機会があると答えたタン布林、カスタネット、鈴、トライアングル、ウッドブロック、大太鼓、小太鼓、シンバルの活用方法は図2のとおりであった。

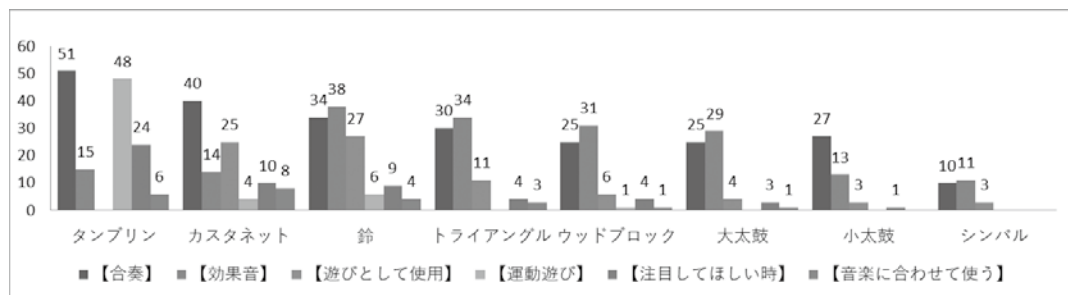


図2 リズム楽器の使い方

タン布林、カスタネット、小太鼓は、「合奏」の際に使うことが最も多いことがわかった。一方、鈴、トライアングル、ウッドブロック、大太鼓、シンバルは、「効果音」として使われることが最も多いという結果であった。楽器別の使い方として、最も顕著に表れたのが、タンブリンの「運動遊び」としての使用であった。以上のことから、保育におけるリズム楽器は、合奏の活動で用いられる一方で、効果音として音そのものを活用し、動きの効果のために使う機会が多いことが明らかになった。さらに、タン布林に関しては、運動遊び等、身体運動の目標として、空間を利用して使われる傾向が示された。

2. リトミックにおけるリズム楽器

(1) リトミックとリズム楽器

前述の調査結果から、保育の実践においては、保育者はリズム楽器を合奏の際に使用すること、動きの効果音として用いること、中でもタン布林は、持って動かすことができる、持ったまま移動することができる、というリズム楽器の特性を活用していることが確かめられた。そこで、保育者がリズム楽器を用い、子どもが表現を楽しむ環境をどのように構成することができるか、音楽と動きを融

合したリトミックの教育方法について検討し、考察していく。J＝ダルクローズは、「人間の身体表現を生き生きとしたものに¹⁷⁾」することをリトミック教育の目的の一つとしていた。J＝ダルクローズに関する著書、『エミール・ジャック＝ダルクローズ 作曲家・リトミック創始者』¹⁸⁾の中に、「打楽器」として次のような記述がある。

種々のタンバリン、ティンパニ、ばち、棒、太鼓、大太鼓、これらは拍節的な感覚を形成する単純なリズムの練習に役立つ。手や指を動かすことによって、これらは、普通では困難な身体表現をより容易にする。さまざまな空間的な図形をえがく練習を容易にし、子供たちはみんな一致して練習することができる。

トライアングル、シンバル、拍子木、鈴、木琴、手拍子¹⁹⁾。…これらの種々の楽器は、調和のとれた響きを示して音の構成を完全に目覚めさせてくれる。²⁰⁾

このように述べるとともに、J＝ダルクローズは、打楽器を身体運動の協力者とみなし、アクセントをつける感覚と拍節の感覚の発達に適していると考えていた。²¹⁾ また、リ

トミックで用いられる用具としての楽器は、「行動を誘発するもの、動きを刺激するもの、表現を強めるもの…独自のダイナミクス、独自の運動リズム、独自の響き²²⁾」をもつことが条件であり、それは「リトミック授業の目的²³⁾」でもある。「リトミック教師たちの多くが…鐘、トライアングル、ハンドドラム、バットなど、小さな楽器を使うようになった²⁴⁾」、と記述されているとおり、リトミックにおいては、リズム楽器を用いた実践が数多く行われている。

(2) リトミックにおけるリズム楽器を用いた実践

現在のリトミックの実践においては、次のようなリズム楽器の活用がある。たとえば、リトミックの教師であるフィンドレイ²⁵⁾は、著書の『リズムと動き』²⁶⁾において、リズム楽器の一つであるハンドドラムの実践を紹介している。フィンドレイは、著作の内容には、彼女自身の経験による考えが含まれているとしながらも、「本書は、私がジャック＝ダルクローズとともに研究をしたときに学んだ、ダルクローズ・メソッドの原理に基礎を置いている²⁷⁾」、と述べており、J＝ダルクローズの教育理念に沿ったものといえる。フィンドレイによるハンドドラム²⁸⁾使用の実践内容を整理すると次のようになる。

①幼い子どもたちにとっても扱いやすいハンドドラムは、リズムの授業では欠かすことのできない補助の教具である。アクセントを聞き、すぐさま動きで表すことを学ぶ。子どもは、ハンドドラムをフォルテシモで激しく打ち、ピアノシモで静かに打つことに興味を覚えるだろう。²⁹⁾ ②子どもたちは、大きな円になって座り、大きなドラムを持った子どもは強く、激しい拍(beat)の時に打ち、小さなドラムを持った子どもは、静かな拍の時に打つ。³⁰⁾ ③子どもたちは、小さなドラムを打ちながら、力強く歩く。膝を高く上げる。音楽がピアノシモに変わったら、つま先で歩き、ドラムをととても静かに打つ。④クラスの子どもたちは、教師のピアノ、またはドラムの演奏によって四分音符で歩く。音楽が八分音符に変わったら、すぐに止まって手を打つ。

…子どもたちは、四分音符で歩きながら、ドラムで八分音符を打つ。合図があったら動きを入れ替え、八分音符で歩きながら、四分音符でドラムを打つ。³¹⁾ ⑤小さなドラムを床の上に広げて置き、その間を自由に16個の八分音符で走らせる。16個で走り終わった後、ドラムの前にひざまずいて、右手で四分音符を2つ、二分音符を1つ打つ。続けて同様に左手で打つ。また、すぐに走り出す。このゲームをより面白くするために、ドラムの数を減らしていくのもよい。³²⁾ ⑥「ドラム スウィング」(Drum Swing)と呼ばれる練習である。小さなハンドドラムを演奏(interpretation)する。子どもたちは、左手にハンドドラムを持ち、両腕をわきにつけて前にかがむ。1のカウントで両腕を上を上げ、2のカウントでハンドドラムを右手で打つ。3のカウントで腕と胴を下げ、始めのポジションに戻す。…この活動の伴奏には打楽器が適切である。³³⁾ ⑦子どもたちは、「Beat My Drum」と言いながら、自分のドラムを打つ。教師は、ドラムを打ちながら、クラスの子どもたちと一緒に、ゆっくり、速く、優しく、また大きな声で話し、言葉を劇的に表現する。…幼い子どもたちが音を聞き分けるにあたっては、ドラムよりピアノの音による方が難しい。³⁴⁾ ⑧子どもたちに丸い形を意識させるため、4つの小さなドラムを四角く置く。³⁵⁾

このようなフィンドレイの実践の他に、次のようなリズム楽器を使用した活動がある。①同じ速さ、強さにならないよう留意しながら、ピアノの代わりに太鼓、タンブリン、ウッドブロックを演奏し、子どもはそれらの音楽の休止にすばやく反応する。³⁶⁾ ②保育者がタンブリンを持って子どもの輪の中に入り、順に子どもの前に差し出してリズムを打たせる。³⁷⁾ ③打楽器を用い、保育者のリズムを子どもが模倣をする。³⁸⁾ ④子どもが音符の長さに対応させてタンブリンを持って並び、言葉のリズムを打つ³⁹⁾。⑤バス・タムを餅つきの臼に見立て、スティックで餅つきや、混ぜる動きで表現し、拍子感、テンポ感を育む。⁴⁰⁾ ⑥ウッドブロック、カバサ、シンバル、ウッド・チャイムなどの楽器による合奏や身体表

現活動⁴¹⁾。⑥手遊び歌に合わせて言葉のリズムを打ったり、自由にスキップする身体運動を伴ったタンブリンの活動。⁴²⁾ ⑦タムタム、木魚等の打楽器の音で様々な様子を自由に表現する想像活動⁴³⁾である。

以上の実践における打楽器の使い方は、次のように整理することができる。教師⁴⁴⁾が使う場合は、①動きの変化のための合図として打つ、②子どもの歩く活動を支える拍を打つ、③言葉のリズムを打つ、④教師が持つタンブリンを子どもの前に差し出し打たせる、などである。子どもが使う場合は、①歩きながら、あるいは走りながらなど、身体の移動を伴って打つ、②移動運動をしながら強弱を聞き分け、それらを表現して打つ、③ハンドドラムを大きく振り上げるなど大きな動作を伴いながら打つ、④順に打つ、⑤それぞれの楽器の音色を活かした身体表現活動や合奏などである。また、空間を意識するために目印として置かれることも多い。

3. まとめ

本研究によって保育者を対象とした質問紙による調査結果から、保育者が最もよく使うリズム楽器はタンブリンであり、その使い方は、他のリズム楽器と比べて、運動遊びに使われることが多いということがわかった。保育においては、リズム楽器が、とりわけタンブリンは運動遊びなどの際、身体運動の目標として空間を利用し、子どもの動きを引き出すために使われている傾向があることが見出された。リトミックにおいては、打楽器を用いることが大きな効果をもたらす⁴⁵⁾、とされているとおり、現在のリトミック実践においてもハンドドラム、タンブリン等はよく使われており、実践書においてもそれらを用いた活動が数多く紹介されていた。その活動においては、子どもにとって強弱の表現が容易であり、手に持って動くことができるという楽器の特性が効果的に使われていた。

これらのことから、保育においてはすでにリズム楽器を動きのために用いる、というリトミックの実践と共通する活動を行っていることが見出された。また、リトミックにおけ

るリズム楽器の使い方を分析した結果、その活用方法は、「強さと空間と時間の関係」⁴⁶⁾を重視するリトミックの考え方が反映されたものであることが確かめられた。リズム楽器は上下左右の移動に加えて、移動運動が可能である。したがって、リズム楽器は、子どもが保育者の「動きをモデルにしてその動きをまねたり、考えたりしながら、身に付けたり、気付いたりしていく⁴⁷⁾」ことを容易にする。本研究によって、保育者がリトミックの教育方法に基いてリズム楽器の実践をすることにより、子どもが「簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさ⁴⁸⁾」を保育者と共有し、「豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする⁴⁹⁾」、という可能性が示唆された。

おわりに

本研究においては、リトミックが保育においても具体的な方法となり得ることが示唆された。今後は、今回の結果をふまえ、保育者の問題意識を検討したうえで、リズム楽器の活用について、さらに研究を深めたいと考えている。

注) 本研究は、静岡産業大学 2019 年度特別研究支援経費の助成を受けた。また、本研究の一部は、日本ダルクローズ音楽教育学会第 19 回大会、及び日本乳幼児教育学会第 29 回大会にて発表した。

註、及び引用文献

- ¹⁾ 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、フレーベル館、p.439、p.463、p.415、2018
- ²⁾ 本研究におけるリズム楽器は、大太鼓、小太鼓、タンブリン、シンバル、トライアングル、鈴、カスターネット、ウッドブロック等、メロディーを演奏することはできない楽器を指すこととする。
- ³⁾ 乙部はるひ著、「保育現場における楽器導入の仕方を考える：保育者の願いと幼児の発達とのギャップを通して」、『帝京平成大学紀要 第 27 巻』、p.102、2016
- ⁴⁾ 吉永早苗著、「子どもの音感受の世界一心の耳を育む音感受教育による保育内容『表

- 現』の探求一」、萌文書林、p.35、2016
- ⁵⁾ 同上書、p.35
- ⁶⁾ 内閣府・文部科学省・厚生労働省、前掲書、p.45
- ⁷⁾ 同上書、p.45
- ⁸⁾ 同上書、p.32
- ⁹⁾ 同上書、p.31
- ¹⁰⁾ ラインハルト・リング、ブリギッテ・シュタインマン編著、河口道朗・河口眞朱美訳、『リトミック事典』、開成出版、pp.102-103、2006
- ¹¹⁾ 駒久美子・古山律子・味府美香・木村充子・坪能由紀子著、「幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究Ⅲ—人的環境としてのリーダーや保育者の応答性—」、『日本女子大学大学院研究紀要』第15号、pp.1-8、2009
- ¹²⁾ 横井志保著、「領域『表現』に関する調査研究—音楽的表現における保育者の意識と実態について—」、『研究紀要』第33号、pp.125-130、2011
- ¹³⁾ 梅澤由紀子・横井志保著、「叩く表現活動モデルのDVD録画を、どう読み取るか—保育者への質問紙調査から—」、『愛知教育大学幼児教育研究』、第16巻、pp.1-8、2012
- ¹⁴⁾ 乙部はるひ著、前掲書、pp.101-108
- ¹⁵⁾ 細田淳子・香曾我部琢・上田敏丈著、「保育実践における器楽表現活動の現状と課題」、『宮城教育大学情報処理センター研究紀要』、第26号、pp.73-82、2019
- ¹⁶⁾ 今回の調査では、「教職員の出し物」という回答も「効果音」とみなした。
- ¹⁷⁾ J = ダルクローズ著、山本昌男訳、『リズムと音楽と教育』、全音楽譜出版、p.x iii、2003
- ¹⁸⁾ フランク マルタン、チボル デヌス、アルフレット ベルヒトルド、アンリ ガニユバン、ベルナール レイシエル、クレル リズデュトワ カルリエ、エドモン スタドレ著、板野平訳、『作曲家・リトミック創始者 エミール・ジャック＝ダルクローズ』、全音楽譜出版、1977
- ¹⁹⁾ 手拍子と訳されているが、原著 *Émile Jaques-Dalcroze : l' homme, le compositeur, le créateur de la rythmique*, Frank Martin ... [et al.] p.384 を参照したところ、jeu de cloches であり、コンサートパーカッションチャイムを指すと思われる。
- ²⁰⁾ フランク マルタン、チボル デヌス、アルフレット ベルヒトルド、アンリ ガニユバン、ベルナール レイシエル、クレル リズデュトワ カルリエ、エドモン スタドレ著、前掲書、p.375
- ²¹⁾ 同上書、p.375
- ²²⁾ ラインハルト・リング、ブリギッテ・シュタインマン編著、前掲書、pp.103-104
- ²³⁾ 同上書、pp.103-104
- ²⁴⁾ 同上書、p.103
- ²⁵⁾ エルザ・フィンドレイ (Findlay, Elsa) がクリーヴ音楽大学のダルクローズ・ユーリズミックス学部の教授であったときに書いた著作である。
- ²⁶⁾ Elsa Findlay, *Rhythm and Movement Application of Dalcroze Eurhythmics*, Summy-Birchard, c, 1971
- ²⁷⁾ *Ibid*, Preface
- ²⁸⁾ フレームの片面に革、プラスチックなどを張ったもののうち、比較的小さいものを指すと考えられる。本稿では、掲載写真、前後の文脈からハンドドラムとドラムは同一と考えるが、表記は原著のままとしている。
- ²⁹⁾ Elsa Findlay, *op.cit.*, p.10
- ³⁰⁾ *Ibid*, p.13
- ³¹⁾ *Ibid*, p.20
- ³²⁾ *Ibid*, p.22
- ³³⁾ *Ibid*, p.32
- ³⁴⁾ *Ibid*, pp.37-38
- ³⁵⁾ *Ibid*, p.39
- ³⁶⁾ 板野平・神原雅之・野上俊之著、『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』、チャイルド本社、p.16、1987
- ³⁷⁾ 同上書、p.42
- ³⁸⁾ 同上書、p.138
- ³⁹⁾ 同上書、p.118
- ⁴⁰⁾ 神原雅之・井上恵理・小見英晴・菅沼邦子・

有谿英彰著、『“体を楽器”にした音楽表現
リズム&ゲームにどっぷり！リトミック 77
選』、明治図書出版、p.178、2006

⁴¹⁾ 同上書、p.148

⁴²⁾ 同上書、p.161

⁴³⁾ 同上書、p.151

⁴⁴⁾ リトミックの実践書における表記に沿って
「教師」とする。ただし、本稿では、幼稚園
教諭だけでなく、保育士も幼児教育にお
いて教師としての役割を担う立場にあると
する。

⁴⁵⁾ マルタン・デヌス・ベルヒトルド・ガニユ
バン・レイシエル・カルリエ・スタドレ著、
前掲書、p.376

⁴⁶⁾ リトミックにおいては、動きの型を、筋力
(強さ)、空間の大きさ、時間の長さが組み
合わさった結果と考える。(J = ダルクロー
ズ著、『リズムと音楽と教育』、p.47)

⁴⁷⁾ 内閣府・文部科学省・厚生労働省、前掲書、
p.27

⁴⁸⁾ 同上書、p.439、p.463、p.415

⁴⁹⁾ 同上書、p.27